

「美術鑑賞」(その53)

2016年9月28日(水)

谷中・根岸の美術館をたずねて

美術研究家沼辺信一さんを講師にお迎えし、谷中・根岸界隈の3つの美術館を訪れました。下町風情とアートをおおいに楽しむ秋の一日となりました。

- 台東区立書道博物館
- 台東区立朝倉彫塑館
- 東京藝術大学美術館

明治から昭和にかけて活躍した、洋画家・書家中村不折と、彫刻家の朝倉文夫の足跡を訪ねました。書道博物館では、中村不折がその半生40年あまりに蒐集した中国・日本の書道史上重要なコレクションを鑑賞しました。朝倉彫塑館は、東洋のロダンと呼ばれた彫刻界の巨匠朝倉文夫が7年の歳月をかけて、設計から細部の意匠に至るまでこだわり抜いた、自宅兼アトリエであった芸術空間に身をおきました。東京藝術大学美術館では、明治時代の「超絶技巧」な工芸品を堪能しました。

帰途のバスの中で沼辺先生より次のようにお話いただきました。

今回の美術研修は3本立てでした。明治時代までの日本には、いわゆる「彫刻」は存在しませんでした。床の間の置物的な工芸品として精密で手のこんだもの、「超絶技巧」なものが作られていました。これらの名品を東京藝術大学美術館で鑑賞しました。そして明治時代



朝倉彫塑館エントランスにて

外国からもたらされた「彫刻」がその後、日本でどう花開いていったかは、朝倉彫塑館でみることができました。同じく明治時代に本格的なヨーロッパの油絵を日本に持ち帰った中村不折のもう一つの仕事、「書」の研究を書道博物館で見ました。

東京にはたくさんの美術館があり、展覧会を見に行くことはあっても、美術館そのものを見に行くことはあまりないでしょう。書道博物館、朝倉彫塑館は美術館自体がとても魅力的でした。いつでも行ける場所にありながら、案外行ったことのない方が多かったのでないでしょうか。いわば穴場的なスポットです。今回はバスを使いましたが、いずれの美術館も徒歩で回ることが可能です。天気の良い日には是非また散策してみてください。



書道博物館中庭にて沼辺先生と参加者

朝倉彫塑館外観

手入れの行き届いた草木、そして下界をみわたすように彫刻が置かれている屋上庭園

デジタル一眼レフカメラ入門 (その3)

2016年9月6日(火)～7日(水)

デジタル一眼レフカメラの入門講座が鎌倉材木座の研修施設を拠点に開催されました。撮影テーマは、昨年に引き続き「わたしの見つけた瞬間」です。

初日は講義の後、北鎌倉「建長寺」で撮影実習、研修施設に戻って講評、懇親会、2日目は「フラワーセンター大船植物園」で撮影実習の後講評という盛りだくさんの内容の研修でした。講師にお迎えしたのは、日本大学芸術学部写真学科講師の穴吹有希先生、お手伝いには同大学生徒の小田倉璃菜さん、代市千晶さん、福原歩さんが来てくれました。



穴吹先生の講義を聴く参加者のみなさん

また、参加者全員の写真をパネルにして、10月24日から11月2日まで、中目黒GTギャラリーにて作品展覧会を開催しました。

誌上写真展

写真展「わたしの見つけた瞬間」vol.3



2016年
10月24日(月)
～
11月2日(水)